

**公共劇場舞台技術者連絡会主催**  
**『サンミュージゼ「上田市交流文化芸術センター」』見学会（報告）**

平成 26 年 7 月 28 日（月）に公共劇場舞台技術者連絡会主催にて、今年 10 月オープン予定の「サンミュージゼ（上田市交流文化芸術センター）」見学会が行われた。（参加者 15 名）

上田市は、長野県東部にある市であり、県内では長野市、松本市に次ぐ規模の都市である。旧市街は、戦国時代に真田氏が築いた上田城を中心とする城下町で、市の人口約 15 万 7000 人となる。立地場所は新幹線の駅からも近く、隣には大型のショッピングセンターがあり人が集まる文化ゾーンとして計画されている。また、隣接して上田警察署の新庁舎も建設中という活気に満ちあふれている市である。

サンミュージゼとは文化ゾーンの総称であり、「上田市交流文化芸術センター」と「上田市立美術館」が建設されている。センター館長人事では、北九州芸術劇場館長兼チーフプロデューサーで財団法人地域創造芸術環境部プロデューサーの津村卓氏が就任予定であり、昨年 10 月から参与兼プロデューサーに就任し、平成 27 年度以降に館長に就任する予定とのことである。

このセンターは、1530 席の多目的の大ホール、320 席の小ホール、大ホールの主舞台と同じ広さの大スタジオがあり注目すべきは、震災後の新建設法に基づき建設された「特定天井」の工法や、LED などエネルギー削減や環境対策等が注目のホールである。

建設費等は以下の通り。（HP 等参考）

・ 建築主体工事

鹿島・宮下組 JV / 56 億 8000 万円

・ 給排水衛生・空調

ダイキン・城南アクト JV / 11 億 6200 万円余

・ 電気

六興電気・松山電機・辰野電業 JV / 8 億 4000 万円

- ・舞台照明  
東芝エルティールエンジニアリング首都圏営業所(東京)／3億7200万円
- ・舞台機構  
カヤバシステムマシナリー(東京)／5億7000万円
- ・舞台音響  
3社が4億9000万円から4億2000万円の入札したが、いずれも予定価格を超え一回目不調。

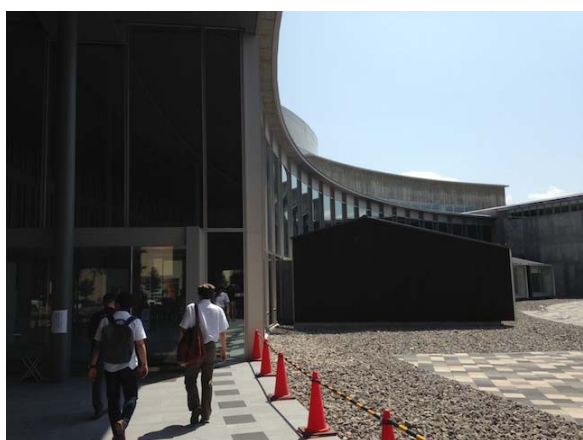
建設途中にて、大規模空間建築物の天井の脱落防止に関わる建築基準法が施行されたため、天井構造の変更を行う設計業務を行ったことから、工期が2カ月程度延長となったとのこと。



外構等は工事中



隣接するショッピングセンター



センター入り口



中庭



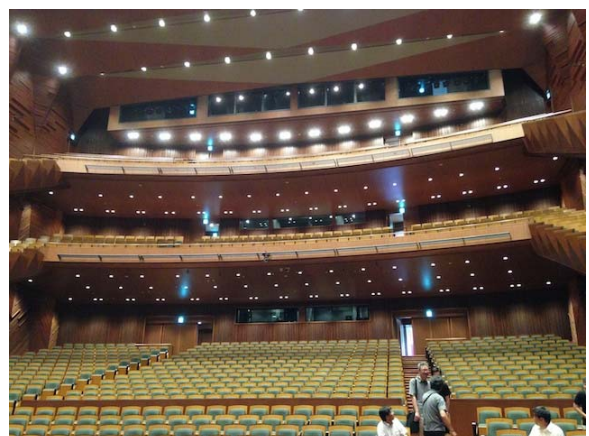
交流プロムナード



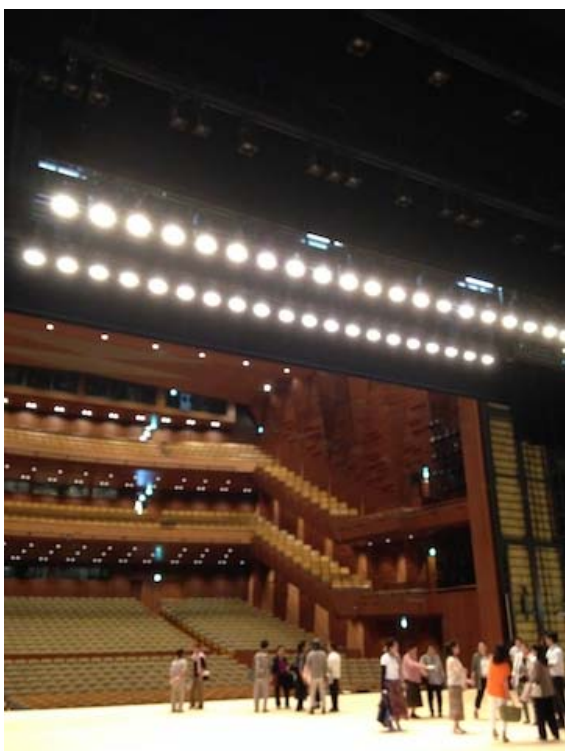
大ホールホワイエ



宮川館長挨拶

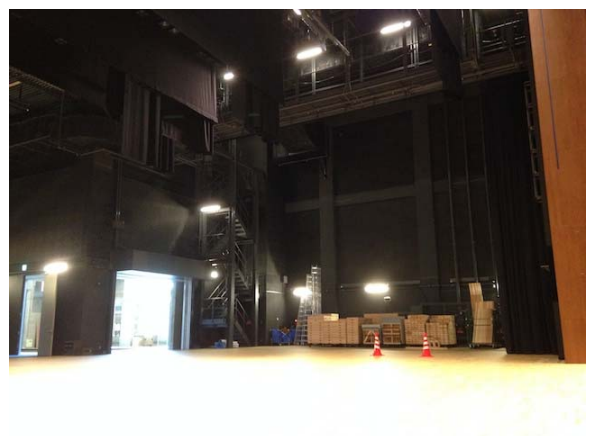


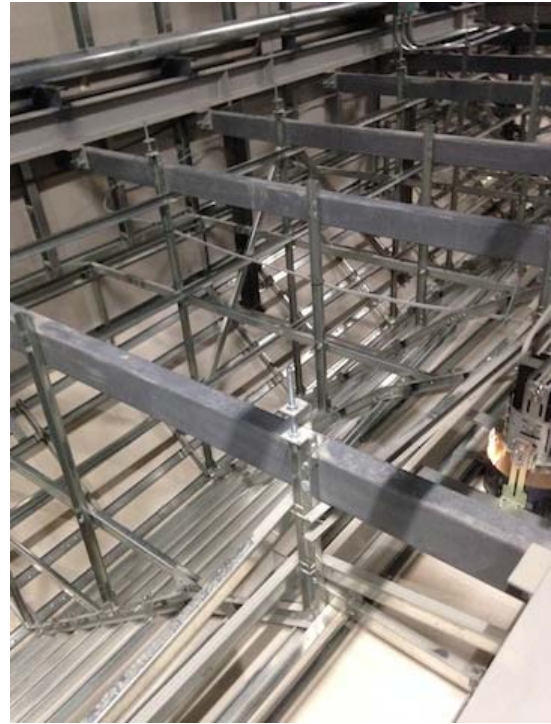
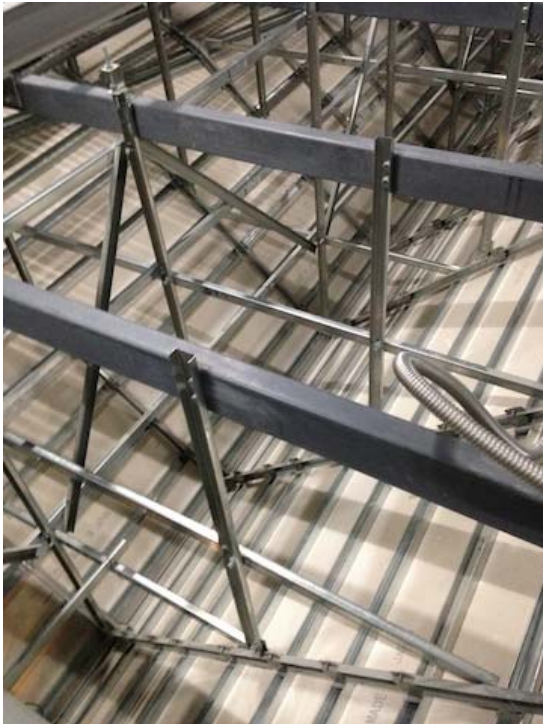
大ホール客席



上手袖舞台

←ボーダーはLED照明





特定天井の新工法（吊り天井方式とは異なり梁が多い分落下する不安感は無い）



客席オペレートスペースは  
座席が折り畳み可能



ピンスポットは転倒防止対策済



簀の子



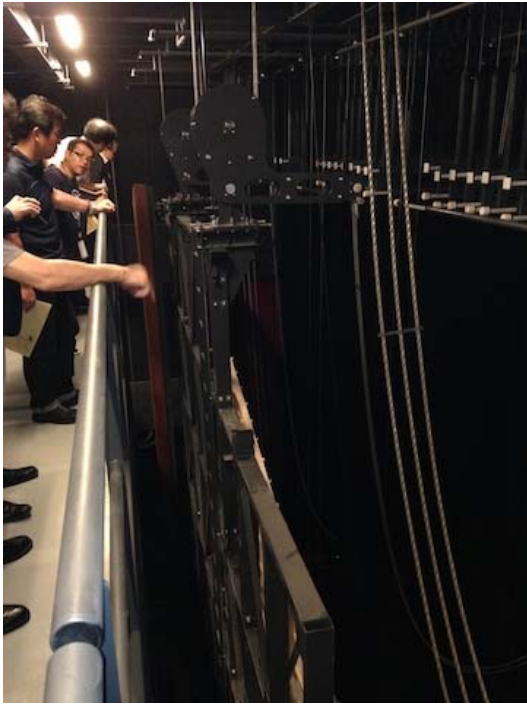
エンコーダー



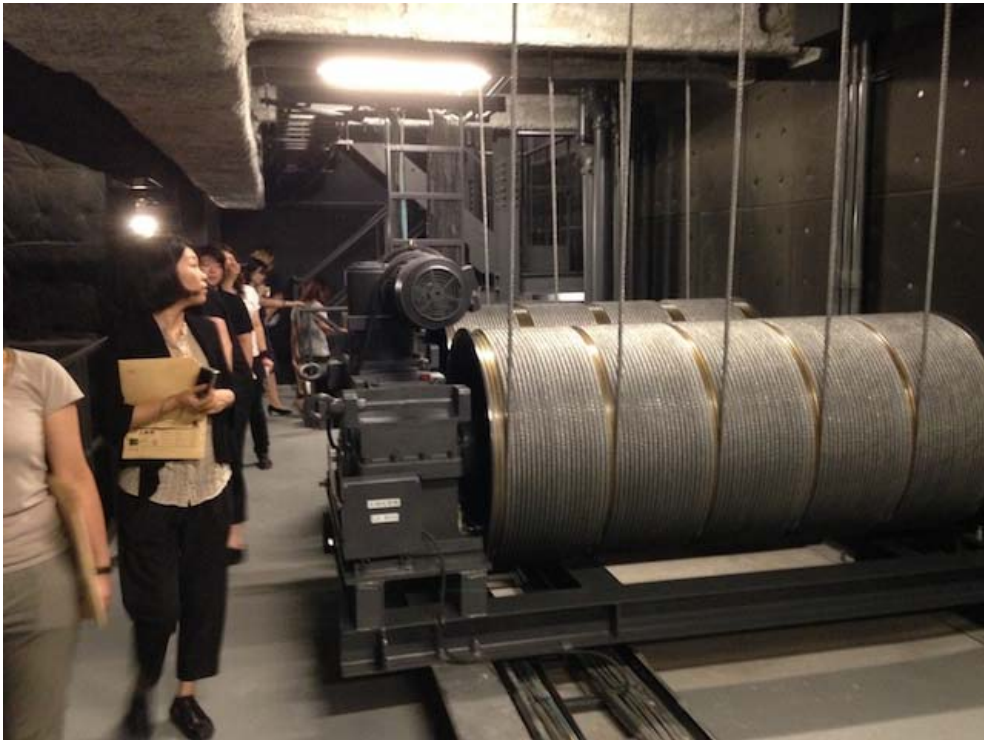
静音型可変速ウインチ



低速域から高速 (max120m/min) までの広い範囲で可変速が可能



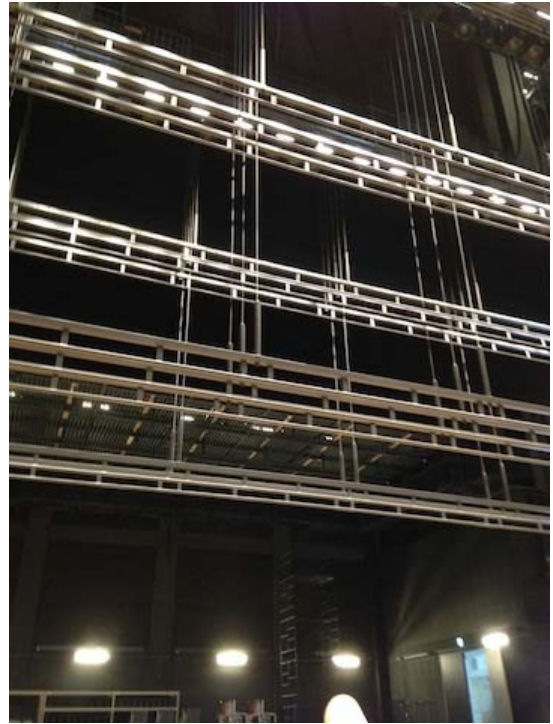
後部吊上げ格納自動変角式音響反射板



反響板用ワイヤードラム



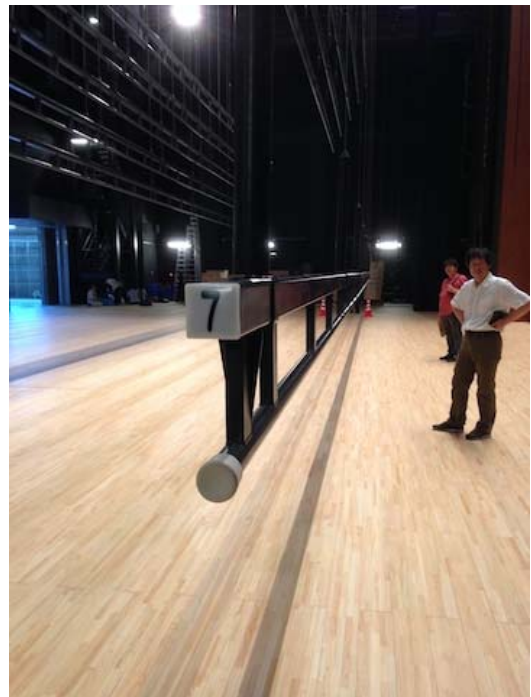
照明ブリッジ



吊り物ボタン



吊り機構操作卓



7ボタン



道具迫り



オーケストラピット迫り

(いずれも、水平に寝かせたらせん状のコイルの間に、ゼンマイ状に巻かれたコイルをはめ込みコラムを形成していく、スパイラリフト式昇降機であり、格納ピットの深さを大幅に削減し、建築コスト軽減に貢献するとのこと。)



奈落には大型の除湿器完備



搬入口 (11t 2台)





小ホール客席



小ホール舞台（緞帳も設置可能）



ホリズントライトも LED 照明



コンセントは DMX・イーサーネット



調光卓



小劇場としても利用できる「大スタジオ」は大ホールと同じ床面積（250㎡）を有する。

（最後に）

裏周りも綺麗に施工されており、設計・施工の管理監督が行き届いている感があった。10月のオープンに向けて備品の準備や開設準備にお忙しい中、見学会の対応して頂きました、舞台技術監督：馬場道雄氏、舞台技術係長：小泉総氏、舞台機構：關澤和也氏他、スタッフの皆様にお礼申し上げます。

以上

報告：公共劇場舞台技術者連絡会事務局